



AFJ日本農業経営大学校

イノベーター 養成アカデミー

2025年度パンフレット



新しい価値を協創し、 アグリビジネスを変革する

問い合わせ

AFJ日本農業経営大学校

(運営法人:一般社団法人アグリフューチャー・ジャパン)

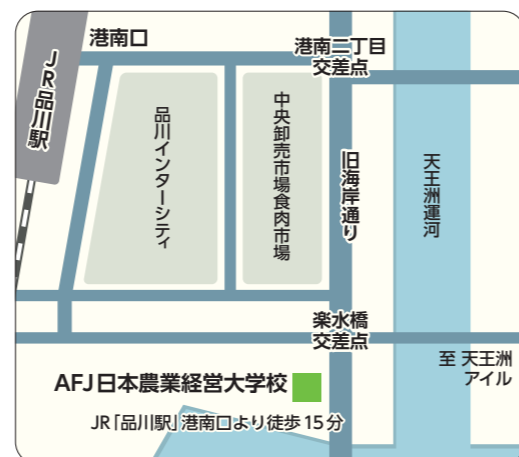
〒108-0075 東京都港区港南2-10-13 農林中央金庫品川研修センター5階

TEL:03-5781-3751 Mail:admission@afj.or.jp



AgriFuture Japan

挑む人に、全力。



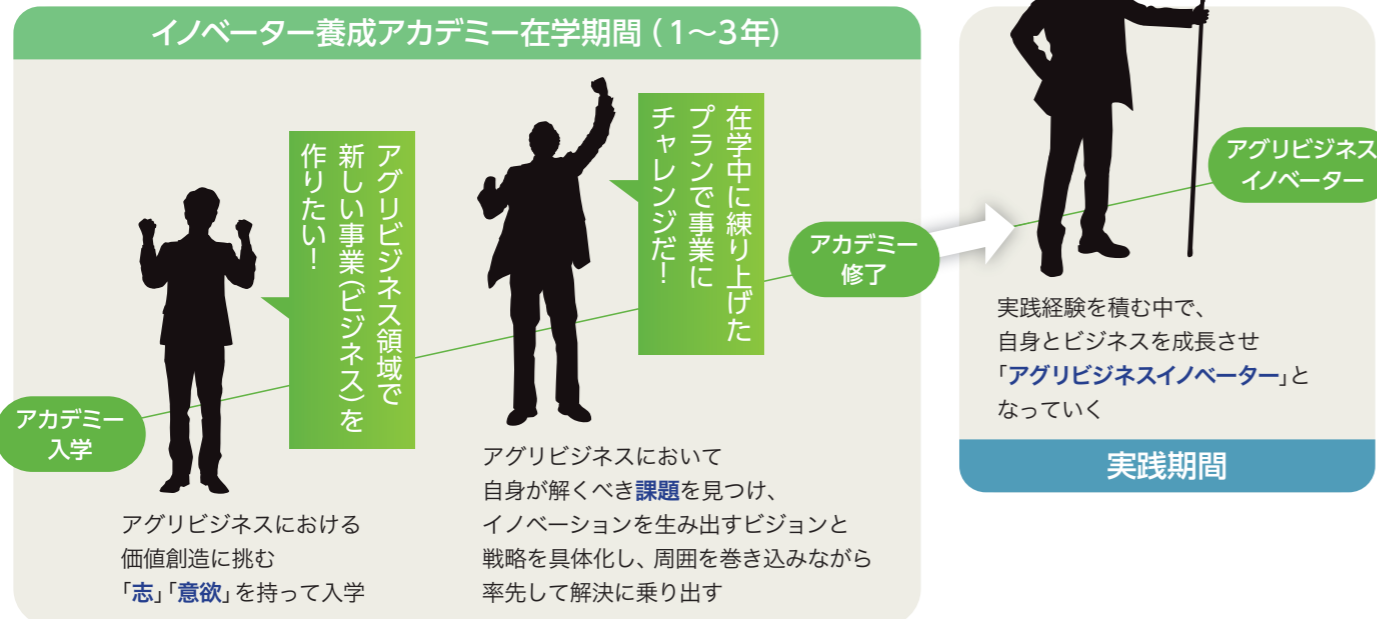
イノベーター養成アカデミー

イノベーション開発手法であるリーンスタートアップの考え方を取り入れ、
実践・検証を軸とした学びにより、最短1年で、
アグリビジネスイノベーターになるために必要な力を身に付けます。

こんな人に最適です

- 1 アグリビジネス領域で起業や新規事業を立ち上げたいと考えている方
- 2 アグリビジネスによって社会課題を解決したい方
- 3 現在の農業経営に変革を起こしたいと考えている方
- 4 自らのアイデアを形にするために協創パートナーを求めている方 など

アグリビジネスイノベーターになるまでの道のり (イメージ)



「アグリビジネスイノベーター」です。

目指す人材像は



アグリビジネスイノベーターとは
目まぐるしく変化する社会や環境において、
川上(生産)から川下(販売)に至るバリューチェーンと
その周辺産業で構成されるアグリビジネスの領域で、
新たな価値の創出と課題解決により革新を起こす人材です。

活躍するイノベーターたち (将来像イメージ)

ゲノム育種、農業ロボット開発など、研究開発型農業で世界を目指す



浅井 雄一郎 さん

株式会社浅井農園 代表取締役

1980年生まれ。大学卒業後、コンサルティング会社等を経て2008年に家業継承。第二創業としてミニトマト生産を開始。独自の農業バリューチェーンを構築・生産規模拡大に取り組み、国内トップクラスの農業生産法人に成長。

社会は常に“変化”しています。人間が生きていく上で必須である農業というフィールドにおいて、その“変化”に対応できる、新たな“変化”を起こせるイノベーター人材が必要とされています。農業経験は必要ありません。新たな発想と勇気を持って、一步を踏み出してください。

気候変動や食料危機の課題に今までにない農業技術で果敢に挑む



豊永 翔平 さん

株式会社 Cultivera 代表取締役 CEO
株式会社ポモナファーム 代表取締役 CEO

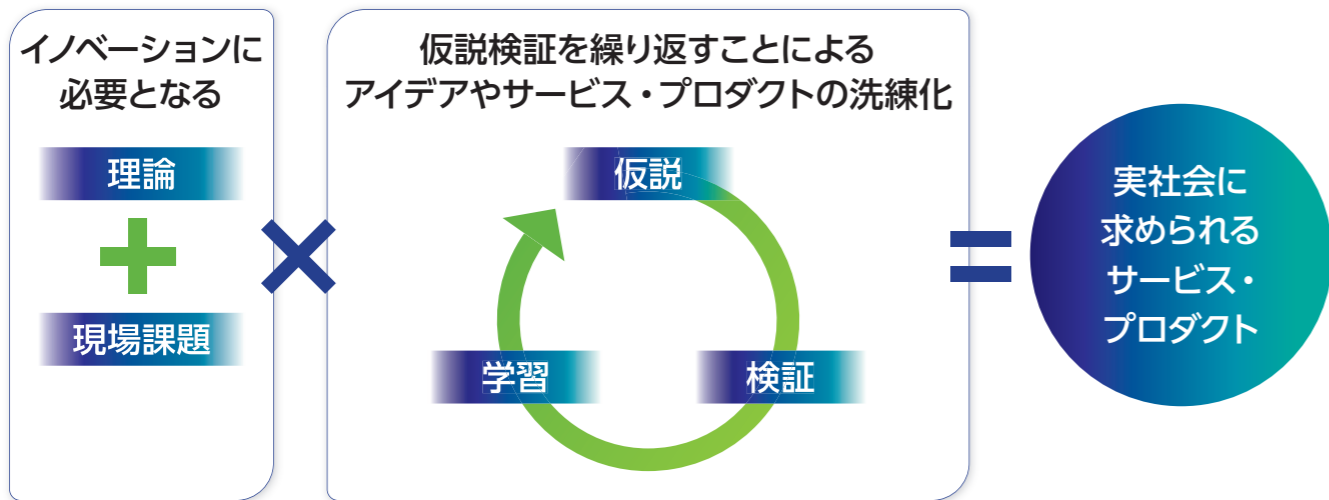
1989年生まれ。環境保全と両立する農業の可能性を探り、2016年に株式会社Cultiveraを設立。独自特許技術Moiscultureを基盤に様々な農業技術の研究開発を行い、自身でも三重県にて農業生産法人ポモナファームを運営。

新しい時代への転換期に生きることは、途轍もなく貴重な事です。農業には多様な手法や世界が広がっており、今の世界を支えるためには、数十、数百のイノベーションが必要だと言われています。農業は経験産業で時間がかかるからこそ、迷わずに今、挑戦することを期待しています。

アカデミーの4つの特長

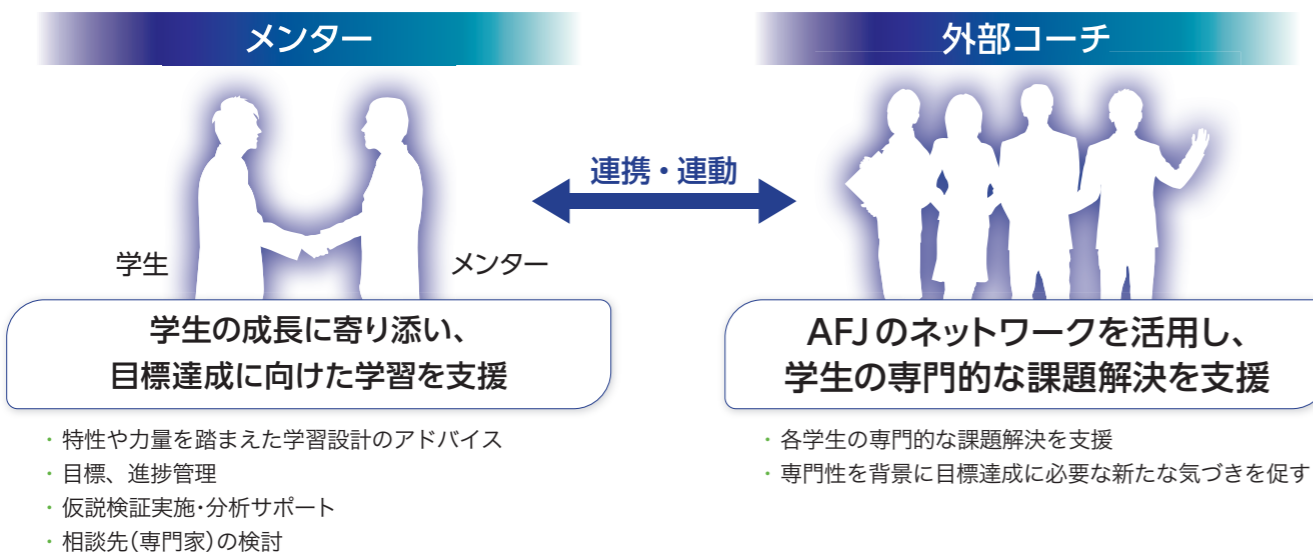
特長1 実効性の高いプランを作り上げる「リーンスタートアッププログラム」

理論を学ぶだけでなく、実際に現場で課題を見つけ、解決方法を検討し、効果を検証するといったサイクルをくり返します。それにより、実社会で求められるサービス・プロダクトや要求水準を認識し、より実効性の高いビジネスプランを作り上げることができます。



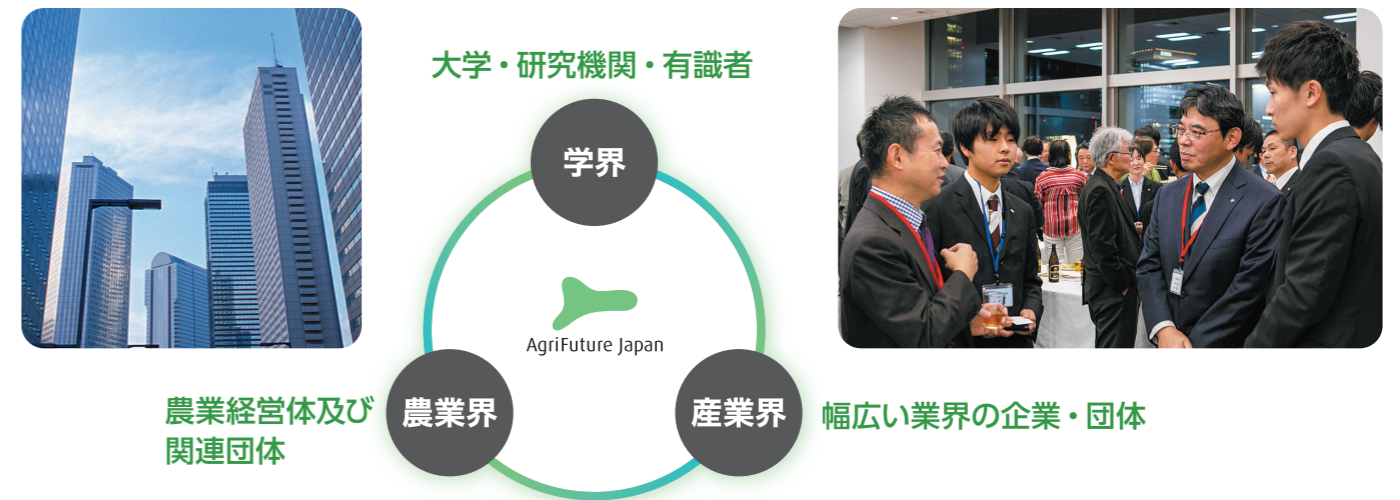
特長2 メンター・外部コーチによる「伴走支援」

学生一人ひとりの問題意識や成長に合わせた学びを後押し。定期的なやり取りの中で効果的な学びをサポートするメンターと、各領域の課題解決をサポートする外部コーチが伴走し、実現したいビジョンに向けた個々人の学びを全力で支援します。



特長3 様々な人脈や協力が得られる「AFJネットワーク」

アイデアやビジネスプランの実効性を高め、可能性を広げるAFJのネットワークがあります。当社団の活動を支える200以上の会員に加え、自治体や企業、農業法人など様々な分野で活躍する人々との交流を通じて、商品開発の連携や仮説検証の協力などにつながります。



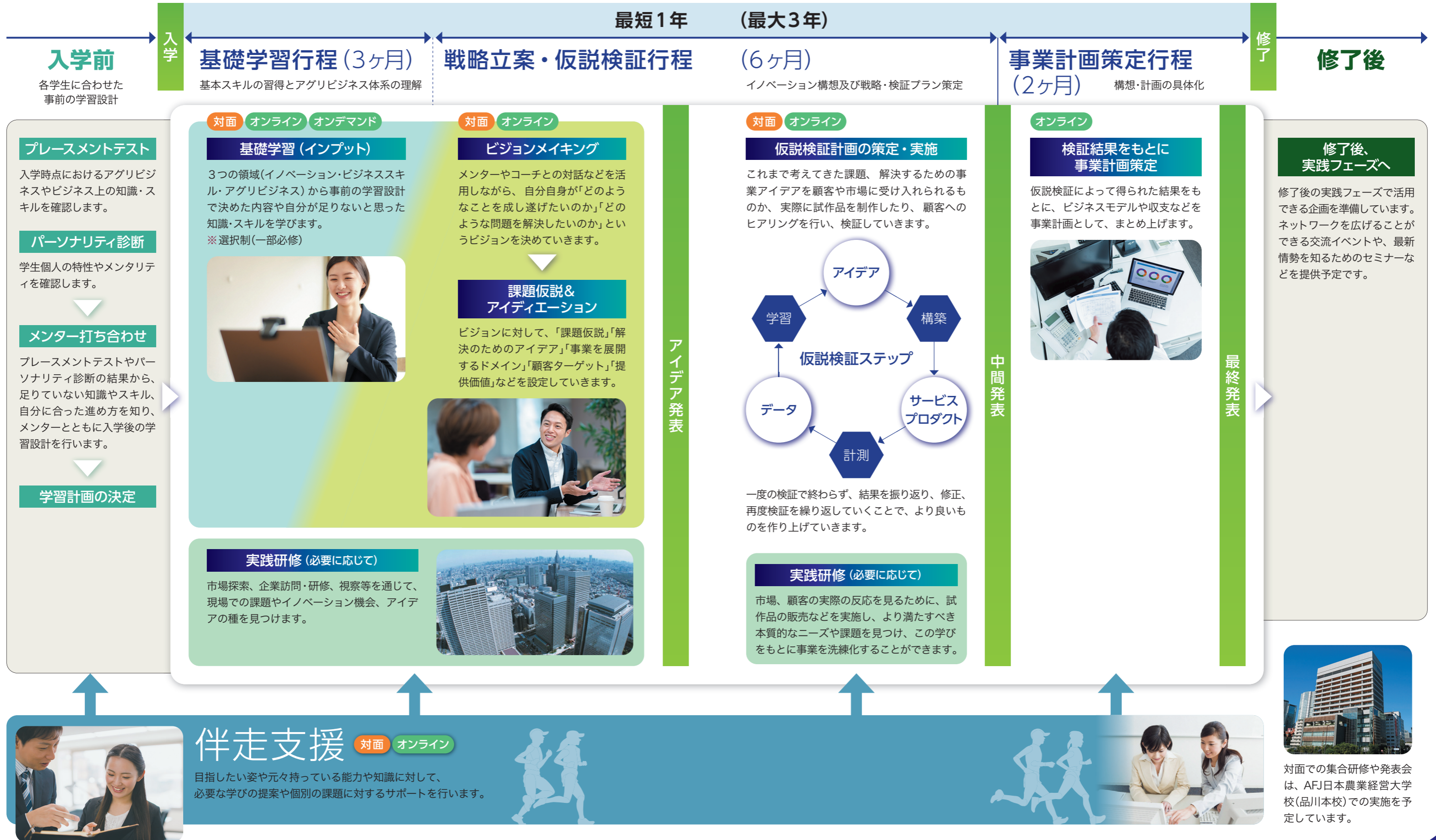
特長4 「仕事と学びの両立」が可能な柔軟な受講スケジュール

平日の夜間にオンライン講義やプランの作成、伴走者との面談を行い、土日に集合研修や現場での仮説検証を実施するなど、社会人でも受講しやすいスケジュールを組むことができます。



カリキュラムの全体像

リーンスタートアッププロセスの中核となる戦略立案・仮説検証行程を軸とした3つの行程と伴走を通じて、「アグリビジネスイノベーター」に必要な力を身に付けます。



伴走支援体制

目標に向けた課題解決や効果的な学びを得てもらうための伴走の仕組みを整えています。目指したい姿や元々持っている能力や知識に対して、一律に同じものを提供するのではなく、必要な学びの提案や個別の課題に対するサポートを行います。

メンター

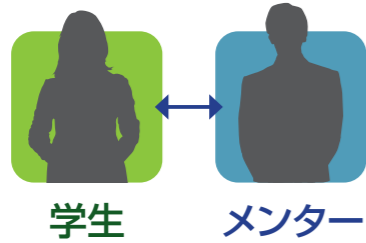
学生の成長に寄り添い、目標達成に向けた学習を支援

主な役割

- 特性や力量を踏まえた学習設計のアドバイス
- 目標・進捗管理
- 仮説検証実施・分析サポート
- 相談先(専門家)の検討



メンターの関わり方



月に数回、オンラインもしくは対面にて面談

主な面談内容

- 基礎学習行程で学ぶべき知識・スキル
- ビジョンメイキングやアイディエーション時の意見交換(壁打ち)
- 仮説検証計画・検証フィールドの検討
- 外部コーチ活用の検討
- 日々の進捗報告・悩み

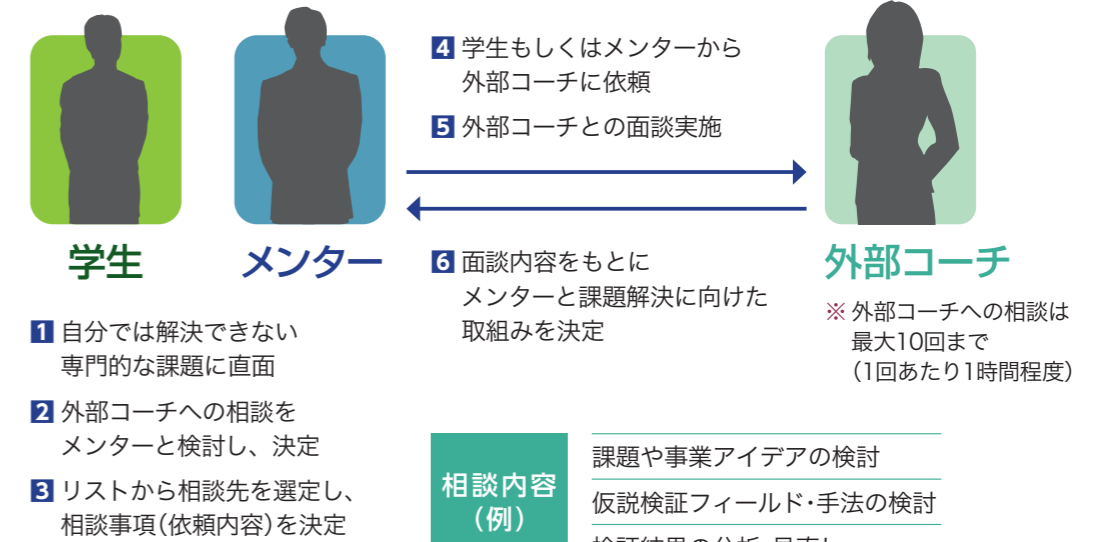
外部コーチ

AFJのネットワークを活用し、学生の専門的な課題解決を支援

主な役割

- 各学生の専門的な課題解決を支援
- 専門性を背景に目標達成に必要な新たな気づきを促す

外部コーチへの相談の流れ



活動を後押しするメンターたち



仲野 真人 (なかの まさと)

株式会社食農夢創
代表取締役

2005年立教大学経済学部を卒業、野村證券(株)に入社。2011年野村アグリプランニング&アドバイザー(株)に出向。2019年退社後、(株)食農夢創設立。2021年には明治大学専門職大学院グローバル・ビジネス研究科を首席で卒業。現在は農業法人や食農企業の経営支援およびビジネスマッチング、農業塾の講師、プラットフォームの運営まで幅広い業務を手掛ける。



名取 隆 (なとり たかし)

立命館大学大学院 テクノロジー・マネジメント研究科
教授

1980年東京大学経済学部卒業後、日本開発銀行(現・日本政策投資銀行)入行。約30年間、新規事業への投資・融資業務等に従事。自治体へ出向し起業家育成政策を経験。2009年から立命館大学教授に転じ、現在に至る。大学では起業家養成目的の実践型授業を担当。名取ゼミから数社のスタートアップも輩出。英国ロンドン・ビジネス・スクールに留学経験。東北大学で技術経営分野の博士号(工学)を取得。

相談先のカテゴリー例



※ 外部コーチは、現役の経営者から、コンサルタントやシンクタンク、弁護士、会計士等、幅広い方々にお願いしています。
※ 外部コーチの詳細は、ホームページにて公開しています。

基礎学習行程(約3ヶ月)

戦略立案・仮説検証行程を実施するために必要な知識・情報を3つの領域から学びます。

- 市場環境や課題の捉え方、事業アイデアの検討などに必要な知識・情報を、3つの領域(イノベーション・ビジネススキル・アグリビジネス)から学びます。
- 科目は必修と選択があり、選択科目は、メンターとの事前の学習設計で決めたものや興味のあるものを選択して受講します。
- 働きながらでも学べるよう、平日夜間のオンライン講義(ライブ)や動画教材、土日の集合研修(月1~2回、品川本校)を実施します。



イノベーション

市場環境の捉え方とイノベータースキル・思考法の基礎を習得

必修

科目名	概要	講師
未来志向概論	VUCAを構成する要素と観点を学び、予測困難な未来における社会や市場を検討する上での着眼点について学びます。また、ビジョン実現に向けた10倍思考でのイノベーションについて検討します。	三村戦略パートナーズ(株) 代表取締役、イノベーター養成アカデミー 主任教授 三村 昌裕
市場環境概論	アグリビジネスを取り巻く市場環境の捉え方を学び、広い観点から農業課題を捉え「問い」を立てる力を涵養し、自ら解決すべき農業課題とイノベーション要素を見出す力を身に付けます。	
アントレプレナーシップ概論	解決すべき課題テーマにおいて「あるべき姿」へのビジョンを描き、現状とのギャップからビジョン実現へのロードマップを描きます。提供価値やソリューションと優位性について検討します。	
仮説検証思考法	ロジカルシンキング等を活用する事で、アグリビジネスを通して自ら解決すべき課題テーマを論理的に設定し、解決策を構造的に立案でき、重要な仮説について検証する手法を習得します。	
顧客価値創造概論	自ら取り組むべき課題テーマに立脚した顧客を設定し、各種フレームワークを活用して顧客課題や提供価値を検討し、顧客価値創造の構図を捉えるスキルを身に付けます。	

メイン講師



三村 昌裕 (みむら まさひろ)

三村戦略パートナーズ株式会社 代表取締役 / 情報経営イノベーション専門職大学 客員教授
株式会社ゆとりの空間 取締役

1969年、長崎市生まれ。東京工業大学で都市計画を専攻。大学院修了後、2001年に三村戦略パートナーズを設立。大企業支援やスタートアップ上場経験を通して、社会課題解決型事業創造を体現する北大発ベンチャー、ポラスター・スペースを設立。農業課題解決事業として経産省J-startupに選定される。現在、人と組織を軸に企業のハイインパクト事業創造の再現性ある取組を支援する「仕組化」に取り組んでいる。

ビジネススキル

イノベーションプラン策定に必要な基本スキルを習得

ビジネススキル

選択

科目名	概要	講師
マーケティング概論	マーケティングの考え方、各フレームワークの活用方法について学びます。	外部オンライン教材
ロジカルシンキング概論	思考プロセスや考え方、各フレームワークの活用方法について学びます。	
クリティカルシンキング概論	目的や用途、各フレームワークの活用方法について学びます。	
ラテラルシンキング概論	物事を多角的に見るラテラルシンキングの重要性、それぞれの思考法の違いや関係性、フレームワークの活用方法を学びます。	
コミュニケーション概論	ディスカッションやプレゼンのスキル、リーダーシップの考え方について学びます。	野村アグリプランニング&アドバイザリー株式会社 取締役 濱田 隆徳
スタートアップファイナンス	農業のスタートアップにおける諸課題とその解決策を学びます。	

ビジネスプラン策定基礎

選択

科目名	概要	講師
事業計画策定(戦略)	事業計画策定において活用する環境分析、事業アイデア等のフレームワークを学び、事業計画を策定する方法を学びます。	株式会社売上UP研究所 代表取締役、中小企業診断士 渡邊 卓
事業計画策定(計画(戦術))	事業計画策定において、計画(戦術)の重要性を理解し、生産、開発、販売、財務などの計画を作成する方法について学びます。	
事業計画策定(中長期プラン)	事業計画策定における中長期プランの重要性を理解し、経営理念や目標設定、到達シナリオや事業評価の方法について学びます。	
事業計画策定(リスク検討)	事業計画策定において、リスクマネジメントの重要性を理解し、事業者としてリスクを効果的に管理する方法を学びます。	

アグリビジネス

世の中のトレンドや食品産業の構造、農業政策・制度、農業が抱える課題を学ぶ

選択

科目名	概要	講師
農業経済	農業経済の全体像や食料需給の特徴、農業の収益性などを理解し、日本農業の課題解決に向けた方向性を学びます。	東京農業大学国際食料情報学部 教授 内山 智裕
日本の食料・農業政策	現代日本の食料政策と農業政策について、基本的・包括的な知識と政策のあり方に関する的確な鑑識眼を養います。	株式会社農林中金総合研究所 主任研究員 小針 美和
世界の食料・農業政策	諸外国の政策の仕組みと最近の流れを理解し、国際比較を通して日本の政策を相対化する視点を得ます。	株式会社農林中金総合研究所 理事研究員 平澤 明彦
食料・農業の法律	アグリビジネスイノベーターとして、知っておくべき農業・食品産業に関する法規制の枠組みと概要を学びます。	渥美坂井法律事務所・外国法共同事業 弁護士 井上 龍子
食品安全衛生に関するリスク管理	“利益につながる「攻め」のリスク管理”としてGAPやHACCPの活用方法をはじめ、食品表示制度について学びます。	宮城大学 名誉教授 (一財)食品マネジメント協会 評議員長 池戸 重信
農業経営のリスク管理	農業経営におけるさまざまなリスクを洗い出し、対応の考え方と事例、ICTの活用について学びます。	国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構本部 総括執行役 兼 NARO開発戦略センター長 森田 敏
農業技術のトレンド	高効率農業生産における栽培管理、植物体情報計測技術を概説し、高度環境制御型施設園芸のあり方を展望します。	豊橋技術科学大学大学院 工学研究科 機械工学系 教授 愛媛大学大学院 農学研究科 食料生産学専攻 教授 高山 弘太郎
食と環境のトレンド	食と環境に関するグローバル動向を紹介し、自分は何をすべきか、考えるヒントとなる講義を行います。	野村アグリプランニング&アドバイザリー株式会社 取締役 濱田 隆徳
消費者動向	消費者行動や心理を捉えるための考え方を身につけると共に、消費者を理解するための具体的な方法について学びます。	玉川大学 経営学部 国際経営学科 教授 神谷 渉
食品流通論	国内のフードバリューチェーンの現状と課題について学びます。	公益財団法人流通経済研究所 特任研究員 高橋 佳生

※ 上記科目は、現時点での予定であり、提供までに変更となる場合があります。

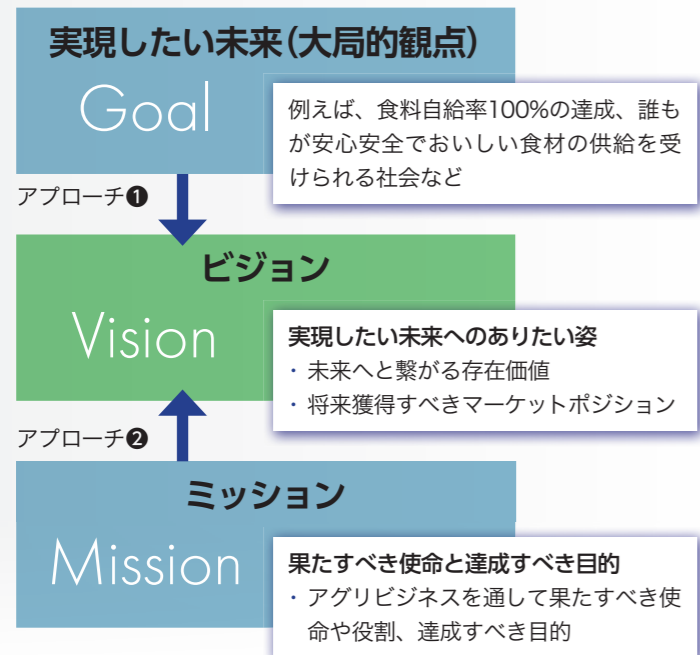
戦略立案・仮説検証行程(約6ヶ月)

本アカデミーにおける教育の軸となる行程です。イノベーションアイデア構築プロセスを身に付け、実践・検証に基づく修正を繰り返すことで、実社会で求められるサービスやプロダクトを構築します。

ビジョンメイキング

アグリビジネスにおける環境分析や自分の思いをふまえて、取り上げるテーマを決めます。課題テーマの解決を通して成し遂げたいことや未来のあるべき姿などビジョンを設定します。

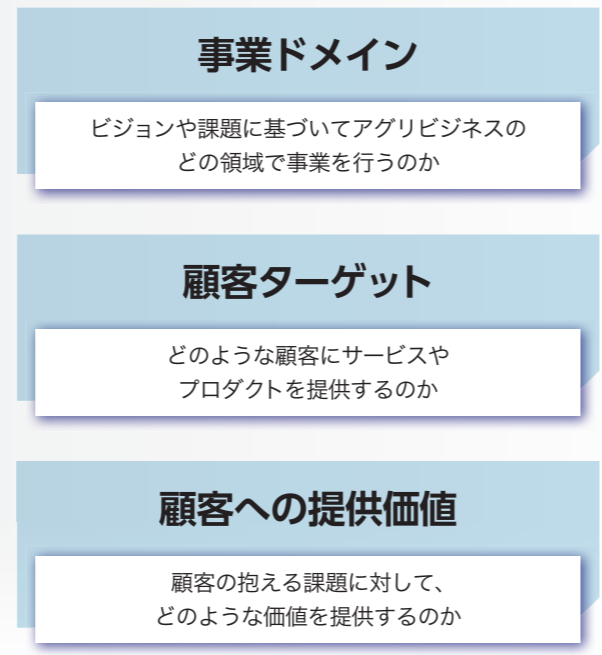
ビジョンを描く際の2つアプローチ



課題仮説& アイディエーション

自らのビジョンと解決すべき課題テーマに基づいて、アグリビジネスのどの領域で、誰に、どのような価値を提供するかアイデアをまとめます。

アイディエーションで検討すべき要件

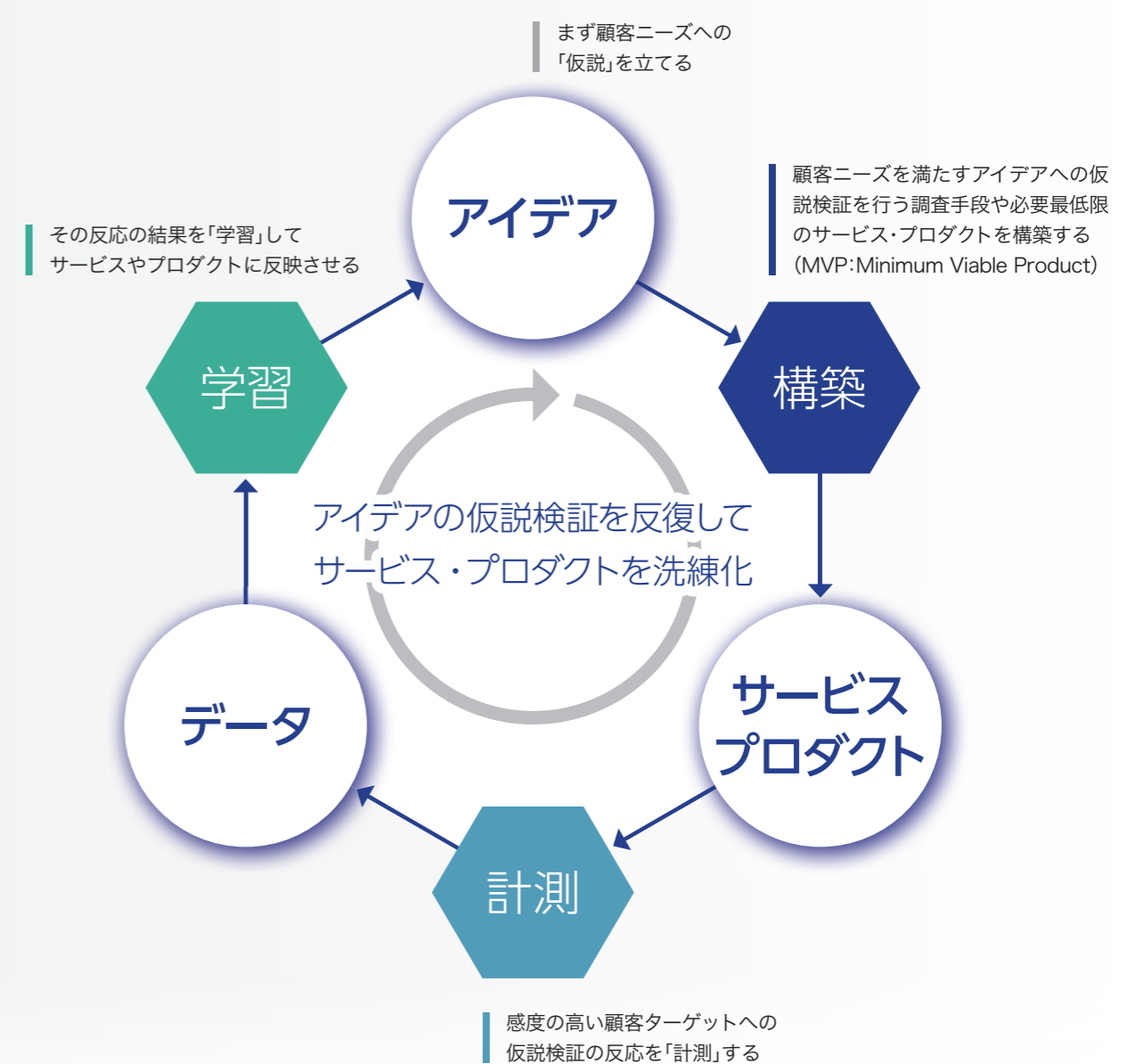


仮説検証計画の策定・実施



考えたアイデアやコンセプトを起点に、素早く形にして、顧客の反応を見ながら、構築(build)→計測(measure)→学習(learn)のサイクルを反復します。事業への仮説検証と学びを通して、サービス・プロダクトなどの事業の要件や仕様を洗練化し、事業成功度を高めます。

仮説検証ステップ(アイデアやサービス・プロダクト洗練化の検討サイクル)



実践研修

市場探索、企業訪問・研修、視察等を通じて、現場で課題やイノベーション機会、アイデアの種を見つけます。また、戦略立案・仮説検証行程で市場や顧客の実際の反応を見るために、実践的に検証を行うことができます。

研修例

- フードバリューチェーン(生産・加工・流通・販売等)の流れに沿った各プレイヤーの拠点視察
- 農業法人や企業における短期間のインターンシップ(現場での取組みを通じた課題の発見、仮説検証)



※ 必要に応じて行う活動のため、実施にともなう調整や費用は各自の負担となります。

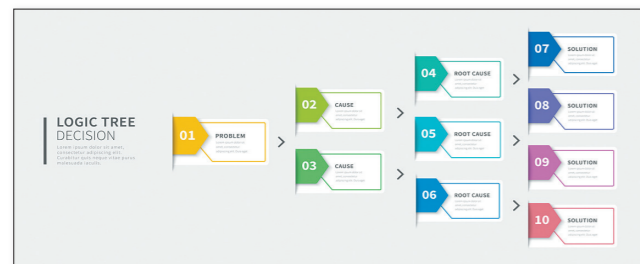
事業計画策定行程(約2ヶ月)

仮説検証の結果をもとに、アグリビジネスイノベーターとしてチャレンジすべき事業の要件を示すとともに、新たな顧客価値創造を通して持続可能な事業計画を策定します。

事業計画として対外的に説明可能な形にまとめることで、資金調達に活用できる計画を作り上げます。

戦略立案・仮説検証行程の成果

ビジネスプラン策定フレームを活用して内容を精査、整理して取りまとめる



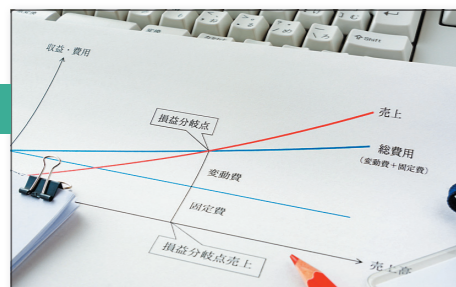
財務計画等の数値シミュレーションを行う



検討に基づくビジネスモデルとして、事業計画書に取りまとめる

● 最終アウトプット

事業計画書



エグゼクティブサマリー

事業計画の概要や重要な論点、数値情報などを整理しまとめたもの。主に事業の概要を簡潔に説明するために使用。

検討・決めるべき項目

- ・バリューチェーンモデル検討
- ・主要ステークホルダー設定
- ・リソース計画及び投資計画策定
- ・資金調達計画策定
- ・売上の予測モデル検討
- ・事業費用計画
- ・シナリオによる推移想定検討
- ・事業評価
- ・CF/PLの計画策定(5ヶ年分)
- ・リスク要因特定
- ・重要成功要因(KSF)の検討
- ・差別化及び展開戦略策定

各種発表会

全3回の発表の機会を活用して、仮説検証や修了後のビジネスの協力者募集、アイデアやビジネスモデルの評価を確認します。 ※非公開での発表も選択可

アイデア発表

解決したい課題は何か、事業アイデアや今後どのような検証を行っていくのかを、AFJ会員や関係者に向けて発表します。

評価ポイント

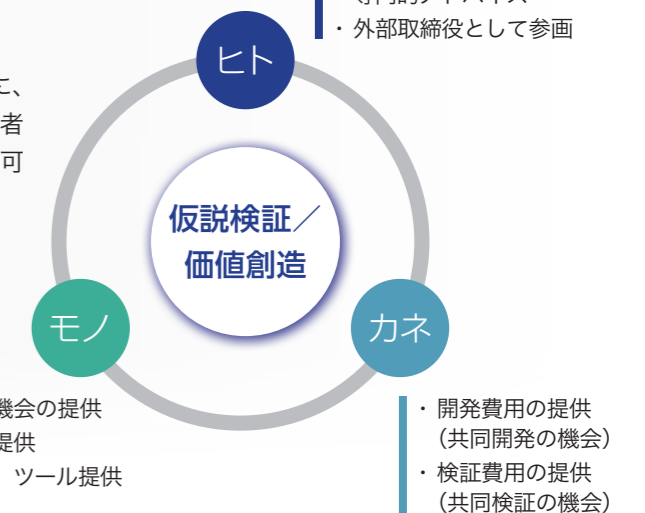
課題への着眼点やイノベーション要素、事業アイデアが適切に設定されているか。

協力依頼例

- ・ハンズオン支援
- ・専門的アドバイス
- ・外部取締役として参画



希望者は発表時に、仮説検証等の協力者を募集することが可能です。



中間発表

実際に行った検証の結果をもとにアイデアをビジネスモデルとしてまとめ上げ、発表します。

評価ポイント

顧客ターゲットや提供価値、事業KPI等の事業要件が裏付けを持って設定されているか。

最終発表

これまで考えてきたビジネスモデル・事業計画を、AFJ会員や関係者等、多くの人たちに向けて発表します。

評価ポイント

アグリビジネスイノベーターとしてチャレンジすべき事業であるか、持続可能な計画となっているか。



入学から修了までの流れ(イメージ)

入学前

入学

基礎学習行程

戦略立案・仮説検証行程

事業計画策定行程

修了

Aさん



■ 学習計画

メンターとの面談で思いの強さはあるものの、**知識やスキルの不足を実感**。まず、知識習得を目的とした学習計画を立てる。

起業を目指すAさん

- ・ 30代男性、都内在住
- ・ 食品関連メーカー勤務
- ・ 社会の一部ではなく、個人として何か成し遂げたいと思っている
- ・ 元々食に興味を持っていたため、食品関連産業での起業を決意し、入学

■ 基礎学習

集合研修などを通じて、課題や解決のアイデアを見つけるための考え方や思考法を学び、**自分の思いを形にする術を知る**。また、動画教材を活用し、**アグリビジネスの全体像を理解**する。

休日や退勤後の時間を活用し、これまで学んだことの復習やアグリビジネス関連の知識を追加する。



■ ビジョンメイキング

メンターとの定期面談や休日を活用して、抽象的だった思いを「**どうなりたいのか**」「何を成し遂げたいのか」という**具体的な言葉、ビジョン**にする。



■ 課題仮説&アイディエーション

これまでインプットしてきた情報やビジョンをもとに、**メンターや外部コーチの力を借りて**、取り組みたい課題とその課題を解決するための**事業アイデアを決定**する。



■ 実践研修

農家や農協、市場などを**実際に訪問**し、現場の課題や苦労していることを知ったり、様々な立場の人と話したりする中で、**解決すべき課題やアイデアの種を見つける**。



Bさん



■ 学習計画

これまでの経験からビジネスに関する知識やスキルは最低限持っていたが、より**課題の深掘りを進める**ため、アグリビジネスへの知識を深めることを中心とした学習計画を立てる。

企業内で新規事業を担当するBさん

- ・ 20代女性、地方在住
- ・ IT企業勤務
- ・ 営業での実績を買われ、新規事業創出プロジェクトのメンバーに抜擢される
- ・ SDGs関連で食農分野の新規事業を進めていたが、より確実性やスピード感を高めるため、企業から派遣され入学

■ 基礎学習

通勤時間に動画教材を見て、アグリビジネスに関する知識を深める。**産業構造を理解**していくにつれて、新たな切り口やステークホルダーなど、これまでとは違う視点が見えてきた。

■ 課題仮説&アイディエーション

これまでに進めてきた新規事業計画を踏まえて、メンターとともにアイデアのブラッシュアップを行う。特に顧客セグメントや検証方法については**専門的な知見を取り入れたかった**ので、**複数の外部コーチにアドバイスをもらった**。また、会社のプロジェクトでもあるため、進捗と構想中のアイデアの報告を自社内で行った。



■ ビジョンメイキング

新規事業として、今後どのようなビジョンを狙っていくのか、どうあるべきなのかを、自社のミッション・ビジョンと照らし合わせながら改めて整理する。

■ 実践研修

これまで考えていたアイデアを実際に農家のもとに行き聞いてみたところ、イメージだけで課題や解決策を考えていたことに気づかされた。そこで、さらに現場のことを知るために、ヒアリング先の農家で**短期のインターン**をさせてもらうことにした。

アイデア発表

仮説検証1回目

■ 検証仮説・計画設定

自分の考えた**サービスが世の中に入れられるか**、課題を本当に解決できるかということ**を検証するための項目と方法を決定**する。



■ 検証実施(実践研修)

まずコンセプトやアイデアをまとめた**提案書でヒアリングを開始**。ヒアリング先をメンターに相談しながら、顧客となる人の声を集める。

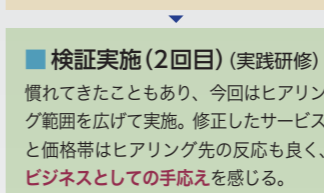
■ 結果振り返り

聞いた声をメンターとともにまとめたところ、課題仮説は間違っていなかったが、考えた**アイデア・解決策では根本解決にはつながらなかった**ことがわかった。

仮説検証2回目

■ 再検討・計画修正

外部コーチからのアドバイスを参考に**再度現場へ赴き**、課題をさらに**深掘り**、アイデア・解決策を修正、検証計画を練り直す。



■ 検証実施(2回目)(実践研修)

慣れてきたこともあり、今回はヒアリング範囲を広げて実施。修正したサービスと価格帯はヒアリング先の反応も良く、**ビジネスとしての手応え**を感じる。

■ 結果振り返り(2回目)

ヒアリング結果を振り返り、少し修正が必要な部分があるものの、課題から**解決策まで筋の通ったもの**になり、二人三脚でやってきたメンターと喜びを分かち合った。

戦略・事業モデル策定

■ ビジネスモデル策定

中間発表に向けて、メンターとともに課題から事業アイデア、ヒアリング結果を、**1つのビジネスモデルとしてまとめ上げる**。足りない情報などを外部コーチに教えてもらい、**実際に顧客に提供するために必要となる要素を具体化**させる。



■ 事業計画策定

事業アイデアを具体的な事業計画へ。財務計画などを考えた経験がなく手間取ったが、近い領域で起業経験のあった外部コーチに相談したことで、**具体的な計画に落とし込むことができた**。



中間発表

最終発表

仮説検証1回目

■ 検証仮説・計画設定

検証する課題仮説、サービスについて、評価項目とスケジュールを決める。

■ プロトタイプ製作

具体的にイメージしてもらうために、**必要最低限の機能を搭載したWEBシステムのプロトタイプを製作**する。

■ 検証実施(実践研修)

ターゲットとするユーザー層に、制作したプロトタイプを実際に触ってもらい、システムに対する評価や課題の捉え方などアドバイスをもらった。

■ 結果振り返り

いくつか修正や要望はあったものの、**ビジネスになりそうな感触は得られた**。そこでメンターと相談し、反応の良かった先に**テストユーザーとして一定期間**利用してもらうことにした。

仮説検証2回目

■ テスト計画策定

外部コーチからの技術的なアドバイスも含め、プロトタイプを更にブラッシュアップし、**テスト期間と評価項目を決定**する。

■ テストユーザー評価(実践研修)

複数名の**テストユーザーに実際の業務の中で利用**してもらい、定期的にヒアリングを行った。



■ 結果振り返り(2回目)

テスト期間が修了し、結果は上々だった。ひとりで定期的にヒアリングできる人数でのテストだったため、**範囲を広げて引き続きのテストを自社の人たちにお願いした**。

戦略・事業モデル策定

■ 戦略・事業モデル策定

まとめたビジネスモデルをもとに、財務計画や中長期プラン、シナリオなどを具体的に設定し、事業計画書に落とし込む。外部には公開できない数字もあったため、**最終発表は関係者だけで行わせる**もらった。



入試・各種制度・説明会

入学試験について

1. 募集対象者

- ・ アグリビジネスにおける価値創造と課題解決に挑む「志」と「意欲」を持つ者
- ・ 学士課程修了程度の学力(理解力、思考力)とコミュニケーション力を持つ者

2. 出願資格 (以下のいずれか)

- ① 学士以上の学位を有する者(取得見込者を含む)
- ② 短期大学士の学位または専門士・準学士の称号を取得し、フルタイム勤務または自営業で通算2年以上の社会人経験を有する者
- ③ 高等学校を卒業し、フルタイム勤務または自営業で通算4年以上の社会人経験を有する者

3. 最大収容人数

30名

4. 標準修業年限

1年 ※自身の進捗に応じて最長3年まで在学可能です。

5. 試験内容

一次試験:書類審査(アグリビジネスにおける課題の解決に挑む志と学士課程修了相当の理解力や思考力などを審査)
二次試験:オンライン面接(志や意欲、コミュニケーション力などを審査)

6. 受験料

5,000円(税込)

7. 学費(初年度)

1,000,000円(税込) ※実践研修・各行程における活動費や旅費交通費、教科書代等はありません。
※1年を超えて在学する場合の延長料は月額50,000円(税込)です。

8. 試験日程

	出願・一次試験(書類審査) ^{※1}	一次試験 合否通知日	二次試験(面接)	二次試験 合否通知日
I期入試	10月21日(月)~10月31日(木)	11月15日(金)	11月23日(土)	11月29日(金)
II期入試	2025年1月6日(月)~1月10日(金)	2025年1月24日(金)	2025年2月1日(土)	2025年2月7日(金)

※1 入学願書および小論文をご提出いただくとともに、指定の口座に受験料をお振込みいただきます。
出願書類等の詳細については、ホームページにて公開している学生募集要項をご確認ください。

よくある質問

Q. イノベーター養成アカデミーを修了することで学位や資格を取得することはできますか？

A. 本アカデミーは、私塾のため、学位や資格を取得することはできません。

Q. 最長3年まで在学可能とありますが、延長するための条件などはありますか？

A. 決まった条件はありません。在学期間は、アイディエーションや仮説検証に時間を要することが想定されるときなどに、メンターと相談して延長期間を決めます(月単位で延長可能)。

各種制度

特待生制度

入学試験において優秀な成績を修めた者に対し、1年間の学費を免除します。

※途中退学等の場合は、免除を受けた学費の納入が必要となります。

免除額

特待生A:学費全額免除(最大3名)

特待生B:学費半額免除(最大5名)

活動費助成制度

実践研修・各行程における活動費の一部を助成します。

※事前の活動計画書提出等の一定の条件を満たす必要があります。
※修了時に支給します。

助成額

最大40万円

対象者

学生全員

説明会

説明会の詳細・申込はこちらから→



●オンライン説明会

イノベーター養成アカデミーのカリキュラム、スケジュール、入試等の説明を行います。

■所要時間:45分(説明30分、質疑応答15分) ※事前予約制

日程	時間	場所
ホームページよりご確認ください	19:00~19:45	オンライン(zoom)

●オンデマンド説明会

お忙しい方のために、オンデマンドでもイノベーター養成アカデミーの説明をご用意致します。

■所要時間:20分程度(説明のみ)

詳細
ホームページの「説明会・セミナー」ページよりご確認ください

●カリキュラム体験

イノベーター養成アカデミーの説明に加えて、カリキュラムの軸となる「課題の発見と・事業アイデア・仮説検証」を体験できるプログラムです。オンラインで気軽にご参加いただけます。

■所要時間:90分(体験会75分、質疑応答15分)

平日夜間での開催予定 ※事前予約制

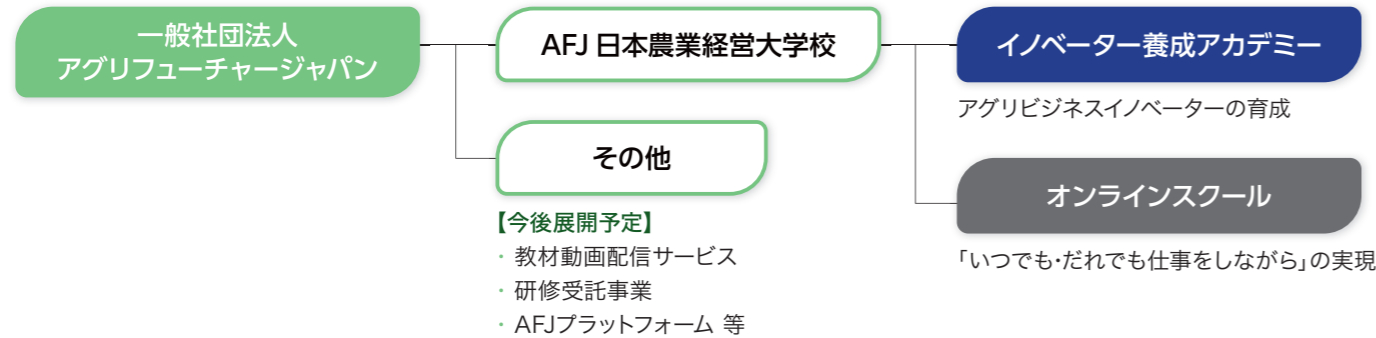
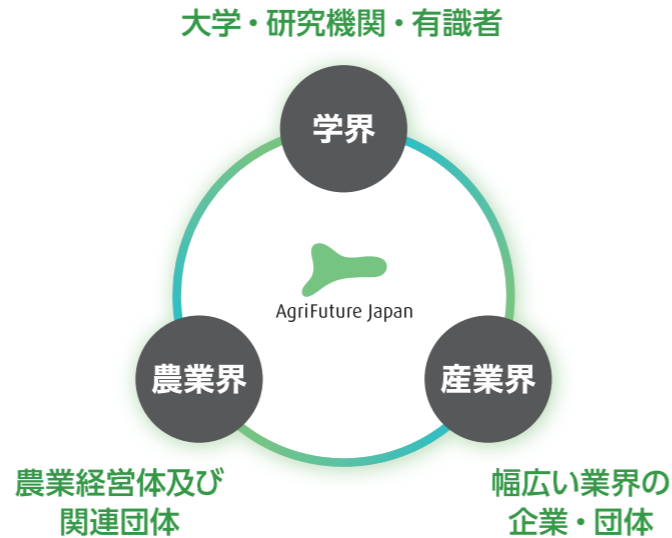
日程	時間	場所
9月~11月 月1回 詳細はホームページをご確認ください	19:00~20:30	オンライン(zoom)

アグリフューチャージャパンについて

AgriFuture Japan 挑む人に、全力。

日本の農業の未来を担う経営者を育成することを目的に設立され、産業界・農業界・学界のオールジャパン体制のもと、業界の垣根を超えた幅広い企業・団体の会員*の皆様のご協力により運営している一般社団法人です。

※ 農家・農業法人、農業関係団体、食農関連企業、総合商社、ゼネコン、私鉄、電機・IT企業、金融機関など
正会員:51会員 賛助会員:172会員 (2023年12月31日現在)



経営理念

パーパス 未来を拓く、人材の育成を通じて
わが国の農業を強く、魅力ある産業に発展させることで
サステナブルな社会の実現に貢献する

ミッション ① 農業を変革する人材を育成する
② 農業界全体の経営力を底上げする



理事長・校長
合瀬 宏毅

校長メッセージ

未来のイノベーターを応援します

私たちの命と健康を支える食と農業。そこには様々な課題が山積しています。高齢化や人手不足による生産力低下の一方で、増え続ける世界の人口。温暖化による天候不順は激しさを増し、環境問題への対応が強く求められています。その課題を解決していくために、データを活かした農業や次世代ファーム、代替タンパクやゲノム編集による新たな食体験といった、新しい動きも次々と始まっています。AFJ日本農業経営大学校は、食や農の世界で新たなチャレンジに挑む人たちを支援してまいります。

理事・監事

代表理事 理事長・校長 理事	元 日本放送協会 解説委員室 解説副委員長	合瀬 宏毅
代表理事 専務理事	一般社団法人アグリフューチャージャパン 事務局長	松永 勇生
理事	エスピー食品株式会社 代表取締役会長	小形 博行
理事	農林中央金庫 代表理事 理事長	奥 和登
理事	農事組合法人和郷園 代表理事	木内 博一
理事	東京農業大学 国際食料情報学部 国際バイオビジネス学科 教授	渋谷 往男
監事	弁護士(東京富士法律事務所)	山田 祥恵

2024年1月1日現在

法人概要



社団名: 一般社団法人アグリフューチャージャパン
所在地: 東京都港区港南2-10-13 農林中央金庫品川研修センター5階
設立: 2012年2月
会員数: 223会員(2023年12月31日現在)
事業内容: AFJ日本農業経営大学校の運営、農業分野における調査・研究等

HP:<https://www.afj.or.jp>

アグリフューチャージャパン会員一覧

正会員

味の素株式会社	イオンアグリ創造株式会社
エスピー食品株式会社	カゴメ株式会社
キッコーマン食品株式会社	株式会社 極洋
サッポロホールディングス株式会社	株式会社 J-オイルミルズ
昭和産業株式会社	スターゼン株式会社
宝ホールディングス株式会社	株式会社 ニチレイ
日清オイリオグループ株式会社	株式会社 日清製粉グループ本社
株式会社 ニッポン	日本ハム株式会社
日本アルモンテ株式会社	ハウス食品グループ本社株式会社
株式会社 パローホールディングス	不二製油グループ本社株式会社
プリマハム株式会社	丸大食品株式会社
マルハニチロ株式会社	株式会社 明治
森永乳業株式会社	株式会社 ヤオコー
株式会社 ヤクルト本社	山崎製パン株式会社
雪印メグミルク株式会社	横浜冷凍株式会社
株式会社 ライフコーポレーション	
公益社団法人 日本農業法人協会	農業者大学校同窓会
一般社団法人 全国農業協同組合中央会	全国農業協同組合連合会
全国共済農業協同組合連合会	農林中央金庫
一般社団法人 全国農業会議所	公益社団法人 大日本農会
特定非営利活動法人 全国有機農業推進協議会	霜里農場
佛田 利弘	株式会社 野菜くらぶ
農事組合法人 和郷園	一般財団法人 日本GAP協会
一般社団法人 日本食農連携機構	株式会社 農林中金総合研究所
生活クラブ事業連合生活協同組合連合会	日本生活協同組合連合会
パルシステム生活協同組合連合会	一般社団法人 日本フードサービス協会

私たちは、
あなたの可能性を応援しています。

賛助会員

伊藤忠商事株式会社	オリックス株式会社	住友商事株式会社	井関農機株式会社	株式会社ADKマーケティング・ソリューションズ
王子ホールディングス株式会社	株式会社クボタ	ゴールドバック株式会社	清水建設株式会社	ダイキン工業株式会社
株式会社電通	富士急行株式会社	三井不動産株式会社	三菱地所株式会社	ヤンマーアグリ株式会社
レンゴー株式会社	株式会社アインホールディングス	株式会社NTTデータグループ	科研製薬株式会社	兼松株式会社
住友化学株式会社	住友不動産株式会社	総合警備保障株式会社	双日株式会社	大成建設株式会社
大和製罐株式会社	ダイワボウホールディングス株式会社	東急株式会社	トヨタホーム株式会社	日鉄興和不動産株式会社
日東ベスト株式会社	日本酸素ホールディングス株式会社	日本通運株式会社	野村不動産株式会社	BIPROGY株式会社
フジバングループ本社株式会社	ホクカンホールディングス株式会社	丸紅株式会社	株式会社やまびこ	UBE株式会社
株式会社朝日アグリア	株式会社豊田自動織機	株式会社インフォメーション・ディベロプメント	エア・ウォーター株式会社	沖電気工業株式会社
片倉コープアグリ株式会社	協友アグリ株式会社	近鉄グループホールディングス株式会社	クマイ化学工業株式会社	京浜急行電鉄株式会社
正栄食品工業株式会社	株式会社西武ホールディングス	積水ハウス株式会社	中越パルプ工業株式会社	中央日本土地建物株式会社
ナイス株式会社	株式会社なとり	日産化学株式会社	日本電気株式会社	日本オラル株式会社
日本曹達株式会社	日本甜菜製糖株式会社	日本農業株式会社	はごろもフーズ株式会社	ヒューリック株式会社
富士通株式会社	北興化学工業株式会社	株式会社丸山製作所	三菱ガス化学株式会社	三菱総研DCS株式会社
株式会社三菱総合研究所	三菱HCキャピタル株式会社	株式会社丸山製作所	SBSフレック株式会社	SBSホールディングス株式会社
NTN株式会社	三菱重工業株式会社	株式会社朝日工業社	株式会社ADEKA	株式会社アミノアップ
飯野海運株式会社	石原産業株式会社	株式会社岩手朝日テレビ	株式会社ウッドワン	塩水港精糖株式会社
株式会社王将フードサービス	株式会社カネカ	木徳神糧株式会社	協同住宅ローン株式会社	株式会社クラレ
クリナップ株式会社	月桂冠株式会社	ケンコーマヨネーズ株式会社	サンケイ化学株式会社	株式会社C&Fロジホールディングス
JA三井リース株式会社	JNC株式会社	シブヤ精機株式会社	株式会社商船三井	昭和バックス株式会社
住友林業株式会社	センコーグループホールディングス株式会社	大王製紙株式会社	高梨乳業株式会社	千葉製粉株式会社
デンカ株式会社	東京センチュリー株式会社	東京定温冷蔵株式会社	東京豊海冷蔵株式会社	東西産業貿易株式会社
東ソー株式会社	東武鉄道株式会社	東洋精糖株式会社	鳥越製粉株式会社	西松建設株式会社
日建リース工業株式会社	株式会社日新	日本カーバイド工業株式会社	日本化薬株式会社	日本食品化工株式会社
一般社団法人日本スーパーマーケット協会	日本製紙株式会社	株式会社浜乙女	フィード・ワン株式会社	株式会社フジ
芙蓉総合リース株式会社	株式会社ベイシア	北越コーポレーション株式会社	ホクサン株式会社	北海道糖業株式会社
保土谷化学工業株式会社	株式会社マルイチ産商	丸善食品工業株式会社	株式会社ミキモト	三井住友ファイナンス&リース株式会社
三菱商事株式会社	宮坂香料株式会社	明海グループ株式会社	ヤマエ久野株式会社	株式会社ヤマタネ
雪印種苗株式会社	ユニチカ株式会社	株式会社吉野家ホールディングス	ラサ工業株式会社	理研ビタミン株式会社
旭化成株式会社	伊藤忠アーバンコミュニティ株式会社	伊藤忠飼料株式会社	株式会社ABC Cooking Studio	株式会社荏原製作所
OATアグリオ株式会社	協同乳業株式会社	株式会社京成ストア	サミット株式会社	ジェイカムアグリ株式会社
信越化学工業株式会社	公益財団法人全国学校農場協会	TPR株式会社	豊田通商株式会社	豊玉香料株式会社
株式会社永谷園ホールディングス	南西糖業株式会社	日清丸紅飼料株式会社	日東富士製粉株式会社	日本酒類販売株式会社
株式会社農協観光	三井化学株式会社	株式会社ラクト・ジャパン		

2023年12月31日現在